

大阪アーツカウンシル 活動報告

「第2回 大阪芸術文化交流シンポジウム 大阪から「美術/アート」を拓く開催風景」

第2回 大阪芸術文化交流シンポジウム

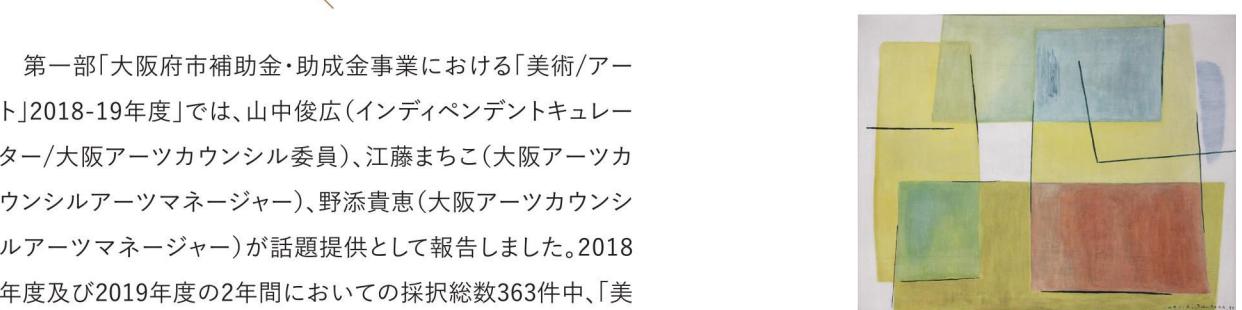
～大阪から「美術/アート」を拓く～ レポート



2020年1月25日(土)に、I-siteなんば(大阪府立大学)カンファレスルームにおいて、大阪アーツカウンシル主催のシンポジウムを行いました。

このシンポジウムは、芸術に関わる人の声を聞き、交流し、新たに出会い、表現が拓かれることを目的に昨年度より実施し、第2回の今回は「美術 / アート」に焦点をあてました。「美術」という言葉は近代以降に誕生したものですが、その公的文化支援の最も大きな形が美術館です。大阪では1936(大正11)年に大阪市立美術館が開館して以来、複数の美術館施設等が設置され、多くの貴重な美術作品を収集し、収蔵し、展覧会等を通して現在に至るまで、大阪という都市に「美術」を顕在化させてきました。一方で美術館を持たない大阪府は、大阪府立現代美術センターを設置し、大阪トリエンナーレの開催を通して大阪府20世紀コレクションを形成し、2000年以降に日本の市民権を得る「アートセンター」や「トリエンナーレ」という言葉を先駆的に使った美術施策を行ってきました。このシンポジウムでは、そのような「美術」を「アート」とともに併記し、同時代性を前提として大阪府市の美術施策の現在について聞くとともに、大阪のアートにゆかりのある、国際的な活動を展開する企画者の発言を起点に、大阪から「美術 / アート」を拓く一つの機会としました。

第一部「大阪府市補助金・助成金事業における「美術/アート」2018-19年度」では、山中俊広(インディペンデントキュレーター/大阪アーツカウンシル委員)、江藤まちこ(大阪アーツカウンシルアーツマネージャー)、野添貴恵(大阪アーツカウンシルアーツマネージャー)が話題提供として報告しました。2018年度及び2019年度の2年間においての採択総数363件中、「美術/アート」に該当する40の事業は、①場/コミュニティ、②大阪のアート組織、③国際交流、④ワークショップ、⑤デザイン分野、⑥アーティスト主体と、活動の特徴を6つに分けることができるとの分析が紹介されました。そして「ここで紹介した事業の多くは美術館で発表するには難しいかもしれない、または美術館ではない場所や屋外で実施する必然性のあるものも含まれます。また美術館は一定の価値が定まったものが扱われやすい傾向もあることから、ここで府市が支援している事業は、むしろ今後の大阪の「美術/アート」の新たな価値を作っていく可能性を秘



津高和一「囲まれた空間A」(制作1955年)(大阪府20世紀美術コレクションより)

第三部「大阪から「美術/アート」を拓く」では、中西美穂(大阪アーツカウンシル統括責任者)が司会に、後藤哲也(グラフィックデザイナー/近畿大学文芸学部准教授)、シーズン・ラオ(アーティスト/UNKNOWN ASIA審査員)、宮本典子(一般社団法人日本現代美術振興会事務局長)、木坂葵(おおさか創造千島財団事務局長)が登壇し、各々の活動の紹介とク

ロストークを行いました。

グラフィックデザイナーの枠に留まらない活動をしている後藤氏は、2019年度にUAEのシャルジャで行われた、中東初のデザインビエンナーレでキュレーターを務めたことや、大阪市此花区にある宿泊施設「The Blend Inn」で開催されたアーティスト・イン・レジデンス(AIR)の活動等を紹介しました。

マカオ出身のラオ氏からは、自らの作家活動として日本をはじめとする国内外のギャラリーやアートフェア等での作品発表や、2017年より審査員として関わる大阪のアーティストフェア「UNKNOWN ASIA」と、そこで選んだ作家をマカオに招いて展覧会を開催していること、北海道で写真を使ったワークショップの活動等の紹介がありました。

日本現代美術振興協会と個人事務所office Nと二つの所属で活動している宮本氏からは、ホテルを使ったアートフェア「ART OSAKA」の概要説明に加え、関連企画として行った作家のフランス派遣や、台湾・高雄のアートフェア「ART KAOSHIUNG」との連携活動についての報告がありました。またoffice Nが取り組む、大阪府内の障がいを持つアーティストの作品を紹介するプロジェクトにも触れました。

おおさか創造千島財団の木坂氏からは、大阪市住之江区北加賀屋の遊休不動産を利活用した活動として、「NAMURA ART MEETING'04-'34」、「クリエイティブセンター大阪」、「モリムラ@ミュージアム」、インスタ映えする壁画やウェブサイト運営など企画の事業のほか、「MASK」や公募助成、パリへの芸術家派遣などの活動支援の事業と、ハードとソフトの両輪でアートを軸としたまちづくりをしているとの報告がありました。

後半のクロストークでは各々の10年後の理想を語る中、キーワードとして「交流」と「滞在」が浮かび上がりました。

最後に、司会の中西から「大阪は多様な文化・人材がいることが魅力です。そのことが伝わるように次年度もシンポジウム企画をしていくとともに、芸術文化事業の視察などを通して引き続き多くの人々と出会っていきたい」と決意を新たにした総括を述べ、シンポジウムは終了しました。



Vasco Mourao「Creative Kitakagaya Perceptions」(2019年)
(おおさか創造千島財団が紹介した北加賀屋の壁画アートより)

るにあたって一番大事なこと、今後やりたいことは?」という質問があり、後藤氏は「大切にしていることは、レジデンスの時にお互いにいい関係性をどうつくるのかを意識している」、木坂氏は「財団として、どんな支援が必要になっているか、状況・時代に即したものを考えるようしている」、宮本氏は「ART OSAKAはギャラリーと話をすることが多いが、作家がやりたいことをサポートするために場をつくるということを大切にしたい。新しい観衆を獲得しないと続かない。民間サポーターや新しいパトロンの獲得はやりたいといつも思っている」、ラオ氏は「東アジアの土地の先人たちから得た知恵や哲学、高めた精神から、次の時代の役に立つことのできる仕事を模索している。」等々、それぞれの立ち位置に根ざした回答がなされました。

参加者からは「大阪で埋もれている人をどのように繋げて、ネットワークを広げていけばよいか?」「アート行政の方向が見えない」「東方文化をどう考えるか?」「初心者に向けてアートを紹介しているが、いろんな人に興味を持ってもらい、アートが発展していくにはどうすればいいか?」といった質問があり、登壇者が回答しました。

大阪アーツカウンシルは、大阪府と大阪市が文化振興を推進するために共同設置した大阪府市文化振興会議の常設部会です。大阪府及び大阪市それぞれの文化課と連携して活動しています。2013年7月よりスタートして、今年度で7年目です。

今年度も「評価・審査」「調査」「企画」に引き続き取り組む中で、前年度より重視してきた毎年170件を超える補助金・助成金の採択事業視察が活かされていると感じています。具体的に2点紹介しましょう。1点目は、補助金・助成金の審査において視察レポートが重要な参考資料となっています。申請書に書ききれていない事業の在り方を読み解くものとして、また新規申請者が取り組むジャンルの大坂の状況を知るものとして審査に役立てています。2点目は視察時に大阪アーツカウンシルと芸術文化事業現場との対話を作り出していることです。活動の忙しい現場において、視察者であると名乗ることで一言、二言の立ち話が可能になります。時には30分程度ゆっくりと意見交換することもあります。そこでは、一方的にヒアリングをするという形式に留まらず、コメントやアドバイスを行い、さらに現場から大阪アーツカウンシルへの意見を預かり、場合によっては後日機会を設けて相談を受けることもあります。芸術文化の活動に一つとして同じものがないように、芸術文化の活動現場

の在り方も同じではありません。したがって、毎回同じように、視察者がヒアリングやコメントを行えるわけではなく、ルール化されていませんが、そのような対話が起こっています。ここで交わされている内容がすぐに何かに結びつくということよりも、対話が生まれ続けるよう、引き続き努力を重ねたいと思っています。

また今年度より、全国のアーツカウンシル組織が集うアーツカウンシルネットワークにオブザーバー参加しています。活動や形態は異なりますが、日本各地にアーツカウンシル組織が設立されつつあります。このネットワークは、そのような各地のアーツカウンシル組織の情報交換の場となっています。各地のアーツカウンシルの状況は、共有できる部分もあれば、異なる部分もありますが、共通しているのは、芸術文化に関する情熱と専門性です。ここへの参加により大阪アーツカウンシルは、大阪府内に留まらない新たなアンテナを得つつあります。

2020年3月で、2018年4月に統括責任者に就任した中西美穂の2年の任期が終了しました。2020年4月より次の2年が始まります。引き続き行うものもありますが、この2年間で気づかされた課題に取り組む挑戦もしたいと考えています。

大阪アーツカウンシル統括責任者 中西 美穂

 OSAKA ARTS COUNCIL

編集・発行: 大阪アーツカウンシル事務局
大阪府民文化部・スポーツ室文化課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16
大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー)37階

TEL 06-6210-9305 FAX 06-6210-9325
E-mail bunka@sbox.pref.osaka.lg.jp
URL <https://www.osaka-artscouncil.jp/>

統括責任者
部会委員
2019(令和元)年度

審査担当委員
2019(令和元)年度

市助成金審査担当 小暮 宣雄・廣瀬 依子
府補助金審査担当 大澤 寅雄・梶木 典子
江藤 まちこ・玉置 憲輔・野添 貴恵・三田村 啓示・横原 新史

中西 美穂
古後 奈経子・權田 康行・志村 聖子・山中 俊広・吉田 隆之

発行日: 2020年(令和2年)3月
デザイン: タナカタツヤ(www.designsalad.net)





2019.4.1 - 2020.3.31